

## ② わり算

「積み上げ型学習」である算数・数学の土台となるのが四則演算。

中でも、「わり算 (3 ケタ÷2 ケタ)」は小学校算数のつまずきポイントの第二関門です。

「わり算 (3 ケタ÷2 ケタ)」のつまずきポイントは以下の三つ。

- ① わり算の筆算が苦手
- ② 「かけ算」「ひき算」「たし算」を全て使わなければならない
- ③ 商が予想できない

3 ケタ÷2 ケタの前の 2 ケタ÷1 ケタのわり算の筆算を確実にマスターするところからはじめ、少しずつステップアップをしながら、かけ算・ひき算・たし算も駆使して桁数の多いわり算の筆算を素早くこなせる総合的な計算力を鍛えましょう。

### わり算の筆算

わり算の筆算のポイントは次の 2 つです。

#### 1. 上の位から順に計算する

筆算をしているうちに位がずれていったりすることがあります。

最初はガイド線を縦に引いたり、方眼のマス目を使って練習するなど、つねに位を意識するようにアドバイスしましょう。

#### 2. 〈たてる〉→〈かける〉→〈ひく〉→〈おろす〉の 4 ステップを 商と余りが求まるまでくり返す

<p><b>たてる</b></p> $\begin{array}{r} 2 \\ 2 \overline{) 53} \end{array}$ <p>商を立てます</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p><b>かける</b></p> $\begin{array}{r} 2 \\ 2 \overline{) 53} \\ \underline{4} \phantom{0} \\ 2 \times 2 = 4 \end{array}$ <p style="text-align: right;">2</p>
<p><b>ひく</b></p> $\begin{array}{r} 2 \\ 2 \overline{) 53} \\ \underline{4} \phantom{0} \\ 1 \phantom{0} \end{array}$ <p><math>5-4=1</math></p> <p style="text-align: right;">3</p>	<p><b>おろす</b></p> $\begin{array}{r} 2 \\ 2 \overline{) 53} \\ \underline{4} \phantom{0} \\ 13 \end{array}$ <p>3をおろす</p> <p style="text-align: right;">4</p>

② わり算

残りの計算	$26$
	$2 \overline{)53}$
	$4$
	$\underline{13}$
	$12$
	$\underline{1}$

計算に慣れてきたら、それぞれ割られる数、割る数の桁数を多くしていき、徐々に筆算に慣れていきましょう。

わり算の筆算

練習問題

わり算の筆算を練習してみましょう！

①

$$7 \overline{)58}$$

②

$$9 \overline{)65}$$

③

$$8 \overline{)971}$$

④

$$6 \overline{)118}$$

② わり算

5

$$13 \overline{)718}$$

6

$$28 \overline{)830}$$

7

$$17 \overline{)177}$$

8

$$22 \overline{)628}$$

9

$$35 \overline{)928}$$

10

$$98 \overline{)841}$$

② わり算

## 九九の練習

素早くわり算の計算をするには、九九をしっかりと習得していることが重要です。

九九を習得するには、かけ算九九の表を使い、繰り返し練習するのが王道です。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27	30
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72	80
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81	90
10	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

上の九九の表は、「黒背景・白文字」の縦の数字と横の数字をかけると「白背景・黒文字」の数字になる、というものです。

はじめは「黒背景・白文字」の数字をそれぞれかけてランダムに九九を練習していき、慣れてきたら、縦か横の数字を固定し、「白背景・黒文字」の数字を隠して、答えをいう練習をしていきましょう。

わり算の筆算の習得のカギは、「お手本をまねてとにかく型（パターン）を覚え、反射的に出てくるようにする」こと。

また、このような練習は体系的に行うのもポイントです。

② わり算

九九の練習

練習問題

表を使って九九の練習をしましょう！

①  $2 \times 9 =$

②  $3 \times 5 =$

③  $6 \times 4 =$

④  $10 \times 7 =$

⑤  $8 \times 8 =$

⑥  $10 \div 5 =$

⑦  $24 \div 4 =$

⑧  $72 \div 8 =$

⑨  $48 \div 6 =$

⑩  $28 \div 7 =$

四捨五入を使い、概数に直して商の見当をつける

わり算(3ケタ÷2ケタ)のつまずきポイントの中でも、最難関が「商が予想できない」ことです。

商を予想するコツは、「はじめからぴったりした商を探そうとするのではなく、まずは四捨五入を使い、割る数、割られる数をそれぞれ概数にして、商の検討をつける」こと。

$$\begin{array}{r} 5 \\ 13 \overline{) 539} \end{array}$$

50÷10と考えると  
商に5が立つ

あとは練習あるのみです。

② わり算

商を立てる

練習問題

商を立てる練習をしましょう！

①  $3 \overline{)135}$

②  $5 \overline{)246}$

③  $2 \overline{)398}$

④  $13 \overline{)465}$

⑤  $18 \overline{)794}$

⑥  $56 \overline{)124}$

⑦  $27 \overline{)468}$

⑧  $44 \overline{)249}$

⑨  $35 \overline{)703}$

⑩  $69 \overline{)216}$